

完了後の評価個表

整理番号	森 3 - 1
------	---------

事業名	(峰越連絡林道事業) 峰越連絡林道事業	都道府県	北海道
地区名	庶路青山 線	事業実施主体	北海道
関係市町村	白糠町 釧路市(旧阿寒町)	管理主体	白糠町 釧路市(旧阿寒町)
事業実施期間	S 62 ~ H 12 (14年間)	完了後経過年数	5 年

事業の概要・目的	① 位置等 白糠町、釧路市(旧阿寒町)は北海道の東部に位置し、釧路湿原に面した山麓斜面に開けた地域であり、総面積は2市町合計で2,135km²である。そのうちの約8割が森林であり、うち人工林率は27%とほぼ全道の平均である。 本林道は白糠町東部の庶路地区と、釧路市南部(旧阿寒町)の下辛地区を結び、道道242号線(起点)と国道240号(終点)を連絡する路線である。 ② 本線林道にかかる森林の状況 本林道の利用区域内の森林面積は1,638ha、そのうち419haが土砂流出防備・水源涵養・防霧防備保安林に指定されている。このため森林の持つ、各公益的機能を高度に発揮させるための森林整備の実施が必要となっている。 ③ 本林道を整備する目的・意義 当地域の人工林はカラマツ・トドマツが主体であり、従来から森林所有者の森林施業の実施の意欲が高いが、施業を行う上で根幹となる路網が未整備であることから、必要な施業が十分に行われてこなかった。このため、白糠町側と釧路市(旧阿寒町)の公道を峰越林道により連絡し、市場距離の短縮、林業経営の合理化等を推進するものである。 (事業概要) 開設延長 11,474m、車道幅員 4.0m、利用区域森林面積 1,638ha
----------	--

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	現時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 総便益(B) 7,030,147千円 総便益の内訳：木材生産便益416,910千円、森林整備経費縮減等便益6,599,410千円 その他の便益 13,827千円) 総費用(C) 3,500,999千円 費用対効果 2.01 (本事業の採択当時には、事業評価制度が導入されていないため、費用対効果分析を行っていない)
② 事業効果の発現状況	①路網から500m以内となる森林の面積が開設前は4%であったが、開設後は95%となり、森林へのアクセスが容易となった。 ②林道の開設により、間伐から生産された材の大型トラックによる運搬が可能となり林業生産性が向上した。 ③人工林は保育や間伐が積極的に行われるようになり、間伐は林道開設後の5年間に間伐を必要とする森林の25%が実施されている。
③ 事業により整備された施設の管理状況	本林道は北海道が整備したあと、白糠町、釧路市(旧阿寒町)が制定した管理基準等に基づき維持管理されている。年1~2回程度の草刈りや路面整正が実施されており、管理状況は概ね良好である。
④ 事業実施による環境の変化	森林のアクセスが容易になった事により、保育・間伐面積が増加するなど、森林施業実施の意欲が高まっている。
⑤ 社会経済情勢の変化	林道開設により、大型トラックの導入による素材生産コストの縮減、搬出された間伐材の利用促進、労働力の効率的な大型移動による、林業就労者の負担低減が図られている。釧路支庁管内では森林組合の再編が進み、より効率的な林業経営の発展が期待されている。この情勢の中、当該地域における林道整備の促進は森林施業の効率化、低コスト化に資するものとして期待されている。
⑥ 今後の課題等	森林施業実施に関する意欲は向上してきているが、木材価格が低迷していることにより、十分に行われているとは言えない状況であることから、大型機械化の推進、路網整備等により、更に森林整備の効率化を図る必要がある。

評価結果	・ 必要性 森林へのアクセスの向上、効果的な森林整備や木材生産等の施業の実施を図るため、基盤となる林道等路網整備の必要性が認められた。 ・ 効率性 費用対効果分析の結果、完了後も費用以上の効果が見込まれるとともに、適切な工種・工法が選定されており、効率性が認められた。 ・ 有効性 事業完了後の維持管理費の縮減状況、森林整備の推進状況、地域住民の利用状況からみて有効性が認められた。
------	---